

主な内容

総会に向けて	浅野 一	(1)
平成 29 年度 総会・懇親会のご案内	木原正義	(2)
総会特別講演会	田口博雄	(2)
平成 29 年度 通常総会 議案書		(2)
第 4 回 キャリア講演会報告	木原正義	(5)
目白だより 2017 年度 大学入試合格者数	齋藤有子	(6)
目白だより 卒業式・謝恩会・入学式報告	松本麻里子	(7)
第 18 回 獨協同窓会ドクターズクラブ	谷田貝茂雄	(7)
獨協ぶらり旅	浜村学夫・谷田貝茂雄	(8)
Zürich 日本旅館 うさぎ山 繁盛記 第1回	倉林正文	(9)
コラム・ドイツ ヨーロッパトラム巡り 第3回 Strasbourg	谷口有三	(10)
フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を授賞して	河崎 健	(11)
クラス会だより		(12)
昭和 42 年卒 古稀同窓会	野澤 正	(18)
獨協三師会のお知らせ	新井雅安	(19)
学園トピックス		(23)
P T A より「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」	佐久間寛道	(23)
「協賛有料スペース」への掲載を募集します	谷口有三	(24)
お知らせ「第2回 私の趣味・逸品展」作品募集	浜村学夫	(24)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>



題字・天野貞祐

第 88 号

平成 29 年 5 月 10 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 浅野 一

総会に向けて

会長 浅野 一

毎年6月に開催される同窓会総会は、この一年間の同窓会活動とそれに伴う会計の収支報告をご承認頂く公式行事であり、総会後の懇親会も含めて広く卒業生(同窓会員)のご意見を聞くことのできる有意義な機会となっております。

しかし、獨協通信への近況報告記事へ多くの投稿が頂けるようになり、更にはホームページからのアクセスでご意見を確認できる手法が整っていることも加わってか、総会での意見交換になかなか繋がっていません。

同窓会の意思決定は、伝統的にも年度幹事から構成される幹事会が主体となっており、幹事会の承認を受けた常任幹事により運営がなされておりますが、会務の執行部である常任幹事会の人員構成も実働構成員の比率



拡充が課題であります。

会務運営に関しては、より多くの同窓会員のご意見とご協力が欠かせませんので、新たな幹事候補者を幅広く募りたく考えています。

幹事選出規定と会則の見直しを足掛かりに、この永年のテーマと改めて取り組んでいきたいと考え、今年の総会に会則の改正議案と過去の関係規則の廃止を提起いたします。

同窓会会員各位におかれましては、各卒業年次ごとに少なくともお一人が幹事のお役目にご当たって頂きたく、お願いを申し上げます。



幹事会(平成28年11月・アルカディア市ヶ谷)

平成29年度 総会・講演会・懇親会のご案内

開催日時：平成29年6月17日(土)

場所・時間：総会 会場：獨協中学・高等学校 小講堂

受付開始：午後4時00分

開 会：午後5時00分

懇親会 会場：椿山荘・ギャラクシー

受付開始：午後6時00分

開 会：午後6時30分

懇親会費：会場受付でお支払い下さい

〈懇親会費〉

昭和35年以前の卒業生 …………… ご招待

昭和36年～平成24年の卒業生 … 5,000円

平成25年～平成28年の卒業生 … 2,000円

平成29年の卒業生 …………… ご招待

同伴者 …………… 3,000円

総会特別講演会

【講演】：セントラルバンキングの世界の内輪から

講 師：田口博雄 (昭和42年卒)

(法政大学社会学部・大学院公共政策研究科教授)

会 場：獨協中学・高等学校 小講堂

開催日：平成29年6月17日(土)

受付開始：午後2時40分

開 会：午後3時00分

略歴

1967年 獨協高校卒業

1971年 東京大学経済学部卒業、日本銀行に入行

1980-83年 国際決済銀行 (BIS) に出向

松山支店長、静岡支店長を経て

2001年 同行を退職、法政大学教授に就任



毎日、皆様が身近で使っているお札、最近ではかなり頻りに新聞やテレビで取り上げられる「大胆な金融緩和」、「マイナス金利」などのニュースなどで、「日本銀行」という存在は多くの方が知っていると思います。しかし、日本銀行を含めて、「中央銀行」というのがどのような組織なのか、何をしているのか、それらの組織を運営しているのがどのような考え方を持った人々なのか、ということについて知識を持っていたり、あるいは深く考えてみたりしたことのある方は、それほど多くはないのではないのでしょうか。

今回は、このセントラルバンキングの世界について、「日本銀行」や「中央銀行」の集まりである BIS という国際機関で働いた経験などをもとにお話したいと思います。それに加えて、時間が許せば、マイナス金利政策など最近の「日本銀行」の政策や、同行が直面する問題・課題について、私なりの考え方をお示しするつもりです。

平成29年度 通常総会 議案書

開催日：平成29年6月17日(土)

〈 総 会 付 議 事 項 〉

第1号議案：平成28年度事業報告の件

第2号議案：平成28年度収支決算の件

第3号議案：平成29年度事業計画書の件

第4号議案：平成29年度収支予算書の件

第5号議案：会則の一部改正と規則見直しの件

第1号議案：平成28年度事業報告の件

浅野会長、柳原副会長のもと、平成28年度事業計画に則り事業を施行した。総務委員会を核にして各種委員会での検討事項を調整し、常任幹事会、幹事会にて協議するシステムが定着した。

① 同窓会運営のために実働できる常任幹事を募り、さらに若干名の新幹事が加わった。しかし相変わらず若い世代の

参加が乏しいことなどの課題があり、役員に関する会則の見直しに向け検討が行われた。

② 同窓会の財務健全化を図るべく、寄付金のお願いを継続的に行うこと。新卒業生の年会費前納制度や同期会やクラブ等の各種OB会において、同窓会のアピールを行うなど、同窓会費納入率向上を目指して活動した。更に来年度より「独協通信」に協賛有料スペース(事業主協賛金)を設けて

募集し、収入の一助とすることが幹事会で承認された。

③ 総会前の同窓生による講演会は、東京慈恵医大脳神経外科講師、先端医療情報技術研究講座准教授の高尾洋之先生（平成6年卒）に、「増加する脳卒中患者、最新脳卒中治療と未来」というタイトルで講演をしていただき、さらにご自身も開発に携わっている救急・救命応急手当ガイドの携帯用アプリ「MySOS」についても解説され、終了後、多くの会員から質問があり盛況であった。総会後の懇親会は、新入会員のほか、現役学生、教職員、会員の家族も参加して盛大に行われた。

④ 例年通り文化祭に参加し、新しい企画として「第1回私の趣味・逸品展」と題し、作品と出品者の制作エピソードなどが紹介された。また、クラブOB会、職域の同窓会のほか、「獨協ぶらり旅」の展示も行われ、大変好評で会員同士の新たな繋がりが生まれるなど、和やかな企画であった。

⑤ 平成25年度に新たな事業として始めた生徒を対象とした同窓生講演会も毎年開催、第4回の今年度は獨協医科大学特任教授森一博先生（昭和47年卒）を招聘し、中3、高1、高2の生徒を対象に、獨協高校での学生生活や、医者になってからのこと、そしてご専門である消化器内科の研究から「IQを上げる食生活について」の講演をしていただき、講演終了後には生徒からユニークなたくさんの質問があり大変好評であった。

⑥ 同窓会の活性化に向けた活動として「ALL獨協構想」が活発に議論された。広報委員会は独協通信86、87号を発行した。会員が経営するお店を紹介する「獨協ぶらり旅」が新たに始まり、会員相互の新たな交流に寄与している。

⑦ 学校との交流も文化祭参加、卒業生への記念品贈呈、成績優秀者への記念品授与、また、OBによる生徒向けの講演会開催等積極的に行った。さらにPTAとともに文化祭のバザーに協力し、収益は校友会への補助金として贈呈された。

⑧ <名簿管理および事務局の管理業務>

会員情報については、個人情報守秘義務を遵守し、会員情報とともに同窓会事務局に厳重に管理されている。新規会員情報や既卒の会員の情報更新については、速やかに個人データ管理システムへ入力処理した。

第2号議案：平成28年度収支決算の件

会費納入が年々減少傾向の一方で、会員各位からの財務拡充の温かいご寄附が寄せられ、加えて、支出の削減に努めた結果、収支差額金を計上した。積立金への繰り入れとする。

第3号議案：平成29年度事業計画の件

浅野会長体制2期6年目の最後の年を迎え、これまでの集大成と未来に向けて総仕上げを行う。まず、①同窓会の組織強化と継続のため役員（常任幹事、幹事）を補強し、実働できる新しい執行役員を積極的に増やしていく。②同窓会の財務健全化に向け寄付金のお願いを継続的に行う。そのため「独協通信」紙面上に広告スペースを設け個人・法人から協賛金を募ることなどを会報・ホームページで発信し具体化する。③また、会費納入率が低いこと、更には会報発送費の高騰なども収支を圧迫していることなどから問題点を分析し、会員相互の各種会合支援を通して、会費納入率や寄付金の向上を図る。④同窓会の年度行事の1つとなった生徒を対象とした同窓生講演会（キャリア教育講演会）を今年度も開催する。さらに、総会前に行う会員を対象にした講演会も継続して開催する。また、会員相互の交流促進のための企画をベースとした広報活動に務める。⑤「ALL獨協構想」については、獨協学園すべての同窓会と連携を取りながら進めていく。獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、ホテル業界等多職種交流会は年々活発となり、学校への寄付や講演会も行われている。新たに獨

協薬剤師会発足の機運が高まるなど更に広がりを見せており、同窓会として支援するとともに、積極的に交流会に参加し、会費納入のお願いを行っていく。また、⑥会員が気軽に利用できる会員が経営するお店を紹介し、様々な領域で会員交流の輪を広げていくことを目的とした「獨協ぶらり旅」を継続し、「独協通信」やホームページに掲載する。⑦「独協通信」は例年通り2回発行する。新たな掲載内容や会費未納者への送付見直しなど経費削減策も検討していく。また今年度はホームページの在り方を見直し、反省し刷新し会員の便宜に応えられる体制を確立する。

第4号議案：平成29年度収支予算案の件

引き続き経費管理を適切に勤める。一方、財務体質強化の一助に「独協通信」紙面上に、個人事業主・法人からの有料広告スペースを新設し、次号12月発行紙面に掲載出来るよう募集活動を行う。

第5号議案：会則の一部改正と規則見直しの件

同窓会の組織の活性化と継続性維持のため役員（常任幹事、幹事）の役割を見直し、実働できる新しい執行役員を積極的に増やしていくことを平成29年度の目標の1つに掲げ、これを実行するにあたり、会則の一部改正と関連規則の見直しを提案する。

● 会則第7条（役員の選任）のうち第6項目の幹事選出規定を改定する。

第7条 会長及び監事は、会員中から総会で選出する。

副会長は、会長が会員中から指名し、総会の承認を得る。

幹事長は、会長が常任幹事中から指名し、総会の承認を得る。

副幹事長は、会長が常任幹事中から指名し、幹事会の承認を得る。

常任幹事は、会長が幹事中から指名し、幹事会の承認を得る。

（第6項目）**[現行]**

幹事は、別に定める規定により、会員中から選出する。

（第6項目）**[改定案]**

幹事は、各卒業年次ごとに会員の推薦を受け会長が指名し幹事会の承認を得る。定員は、各卒業年次ごとに5名以内とする。

● 平成5年に制定された「幹事選出規則」および「支部及び同期会の承認規則」は、現行会則と幹事選出実態にそぐわないことから、両規則を廃止する。

廃止規則

● 幹事選出規則

第1条 幹事は、その選出母体により次の3種類からなる。

1 年度幹事 2 支部推薦幹事 3 会長推薦幹事

第2条 年度幹事は、各卒業年次を選出単位とし、同一卒業年次の会員により推挙を受けた会員に会長が委嘱する。定員は、単位卒業年度につき1名以上、3名以下とする。

第3条 支部推薦幹事は、会則21条により承認された支部の構成会員により推挙を受けた会員に会長が委嘱する。定員は、各単位支部につき若干名とする。

第4条 会長推薦幹事は、会員中より会長が委嘱する。定員は20名以下とする。

第5条 本規則は平成5年6月19日から施行する。

● 支部及び同期会の承認規則

第1条 支部または同期会として本会の承認を受ける為には、次の1～4項の条件を満たす必要がある。

1 本会の会員または特別会員により組織されていること

2 本会の目的に添った活動を行う組織であること

3 本会に、代表者名及びその連絡先、構成会員の名簿を提出すること

4 その組織構成が、すでに承認を受けている支部または同期会と基本的に同一であってはならないこと。

第2条 承認の期限は2年間とし、代表者の申し出により何度でも更新することができる。

第3条 本規則は平成5年6月19日から施行する。

平成28年度 収支決算書 及び 平成29年度予算案

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

収入の部

科 目	28年度決算額 (A)	28年度予算額 (B)	29年度予算額 (C)
入 会 金	6,570,000	6,570,000	6,300,000
一 般 会 費	5,870,000	6,000,000	6,000,000
新 卒 会 費	1,260,000	1,300,000	1,300,000
寄 付 金	1,846,411	1,250,000	1,200,000
財務拡充寄付	1,704,800	1,000,000	1,000,000
スマイルボックス	141,611	250,000	200,000
事 業 収 入	313,000	300,000	300,000
懇親会会費	290,000	200,000	250,000
協 賛 金	23,000	100,000	50,000
資 産 運 用 収 入	79,541	50,000	50,000
雑 収 入		0	
合 計	15,938,952	15,470,000	15,150,000

支出の部

科 目	28年度決算額 (A)	28年度予算額 (B)	29年度予算額 (C)
事 業 費	8,060,246	8,999,600	8,529,600
(1) 総 会 費	1,711,248	1,600,000	1,700,000
(2) 会 報 費	2,297,160	2,200,000	2,300,000
(3) 事業通信費	2,706,781	3,500,000	3,000,000
(4) O B 会補助費	220,000	300,000	250,000
(5) 学校補助費	754,984	770,000	800,000
卒業生記念品費	389,984	320,000	400,000
図 書 費	200,000	200,000	200,000
学友会補助	165,000	250,000	200,000
(6) ホームページ費	129,600	129,600	129,600
(7) 獨協祭参加費	24,033	150,000	50,000
(8) その他事業費		100,000	50,000
(9) 慶 弔 費	92,240	100,000	100,000
(10) 渉 外 費	124,200	150,000	150,000
事 務 費	2,674,896	2,817,200	2,817,200
(1) 事務運営費	808,154	900,000	900,000
(2) 管 理 費	807,500	800,000	800,000
(3) 会 議 費	396,683	400,000	400,000
(4) 旅費交通費	283,530	300,000	300,000
(5) 名簿管理費	367,200	367,200	367,200
(6) 雑 費	11,829	50,000	50,000
予 備 費	0	150,000	150,000
小 計	10,735,142	11,966,800	11,496,800
収 支 差 額 金	5,203,810	3,503,200	3,653,200
合 計	15,938,952	15,470,000	15,150,000

貸借対照表

平成29年3月31日現在 (単位:円)

公社債	22,000,000	(基本財産) 基本金	24,000,000
定期預金	19,000,000	(運用財産) 事業積立金	27,213,075
現預金	15,416,885	(1) 名簿積立金	2,000,000
		(2) 一般事業積立金	25,213,075
		収支差額金	5,203,810
	56,416,885		56,416,885

第4回 キャリア講演会報告

森 一 博 (昭和 47 年卒)

幹事長 木 原 正 義

2月18日(土)母校講堂において表記講演会が行われた。今回は獨協医科大学特任教授で、現在、テレビ東京の【主治医が見つかる診療所】に消化器内科担当として御出演されている森一博先生(昭和47年卒)を講師としてお迎えし、「腸内細菌を改善させて、3ヶ月で誰でもIQが20上昇する食生活」という演題で講演していただいた。

森先生の祖父で人間ドックを初めて行った坂口康蔵先生も獨協の同窓であり、学生時代は天野貞祐先生と同級生で、天野先生が校長の時坂口先生は理事長をされていたそうです。

中学校までは勉強もせず、成績はあまり良くなかったそうで、中学3年生の時に大病をして入院されたのをきっかけに本を読むことが好きになり、退院後獨協高校に入学されてからは何にでも興味が湧き、楽しく勉強できるようになったとのこと。学生時代に獨協の多くの先生方からいろいろなアドバイスを受けたことが今の自分の礎になっていると当時を振り返っておられました。また楽しい学生生活の中でたくさんの友達ができ、獨協医大に進学されてからの同窓生を含め今でも多くの友人と交流されています。現在獨協高校、獨協医大の同窓生である高石潔先生の医院(高石内科胃腸科)で週1回勤務しておられます。

さて本題に入り、まずは腸の生理とメカニズムについて説明され、腸内細菌のバランスがとても大切であると解説されました。腸内細菌は約100種類、100兆個あると言われ、体重60kgの人は菌の重さが約1kgあるそうです。このうち善玉菌、悪玉菌、日和見菌の



講演中の森一博先生

割合は2:1:7で、この善玉菌を増やし悪玉菌を減らすこと食生活こそがIQを上げる秘訣であると説かれました。

“善玉菌を増やすオススメの5項目”として、①食物繊維②オリゴ糖③発酵食品④オメガ3の油⑤食べ過ぎない(腹7.8分目)を、逆に悪い食品と生活習慣として①食べ過ぎ、運動不足②精製した糖分のとりすぎ③脳に良くない油の高脂肪食をそれぞれ挙げて解説されました。これらを留意し、正しい食生活と生活習慣を身に付けることでIQが上がっていくと説かれました。

最後に、ユングの「幸福の5条件」①心身が健康であること②朝起きて今日やることがあること③美しいものを見て美しいと思えること④楽しい対人関係が保てること⑤ほどほどにお金があること。そして森先生が6番目に追加したい条件として⑥女性に好かれることを挙げられ、女性にモテたいなら“今の日々の授業が超(腸)大切である”とユーモアを交え、講演を締めくくられました。

講演終了後は参加した中学3年、高校1,2年の生徒からたくさんの質問があり、テレビの収録時間が迫るなか、最後まで熱心に生徒たちの質問に答えていただきました。最後になりましたが、同窓会、生徒、学校関係者を代表して感謝の意を申し上げます。

このキャリア教育講演会は同窓会の行事として定着してきましたが、これからも幅広い分野で活躍する同窓生を招いて生徒たちへ講演していただき、生徒たちの学習に対するモチベーションを高める一助になってもらえるよう企画していきたいと思っています。



森先生(前列中央)を囲んで

目 白 だ よ り



2017 年度大学入試合格者数

進路指導部長 齋 藤 有 子

陽射しも明るく春めいてきた3月10日、203名の高校3年生が胸を張って本校を卒業していきました。彼らが第一線の社会人として活躍する未来は「不確実性の時代」として喧伝され、将来を不安視する声も聞かれます。しかし、不確実な時代であるからこそ、ますます本校の卒業生たちの活躍の場は広がります。獨協生は自分のことだけを考へ行動するのではなく、常に他者を思いやり、お互いに支え合い、意見交換を行いながら思考を深めることのできる生徒です。他人

との競争的な側面が強い受験勉強においてすら、休み時間中、或いは放課後に教えあい、励ましあっている姿をよく目にします。卒業後も、まだ進学先の決まっていな友人に対して週1回日本史を教え続けたというエピソードをつい最近耳にしました。在学中だけではなく、卒業してからも強い絆でつながった友人に恵まれている、そんな彼らだからこそ、激動の時代を牽引する存在になりうるのだと思います。未来の社会の優等生たちの今年度の奮闘ぶりをご覧ください。

2017 年度大学別合格者数 (推薦者も含め延べ人数)

進路指導部

<国公立大学>

東京	1
北海道	2
東京海洋	1
東京農工	1
千葉	1
埼玉	1
大阪	1
九州	1
首都大学東京	2
合 計	11

<難関私立大学>

早稲田	18
慶応義塾	4
上智	13
東京理科	30
合 計	65

< GMARCH >

学習院	13
明治	20
青山学院	6
立教	13
中央	20
法政	28
合 計	100

<私立大学>

日本	34
東洋	9
駒澤	2
専修	6
成蹊	7
成城	5
明治学院	9
獨協	3
芝浦工業	13
東京電機	4
東京都市	4
合 計	96

<医学部医学科>

獨協医科	3
愛知医科	1
岩手医科	1
金沢医科	2
北里	2
杏林	4
埼玉医科	5
昭和	2
聖マリアンナ医科	5
帝京	5
東海	1
東京医科	1
東邦	4
日本	1
日本医科	1
川崎医科	1
合 計	39

<歯学部>

神奈川歯科	2
昭和	2
鶴見	3
日本	3
日本大学 松戸	3
日本歯科	2
松本歯科	1
明海	4
合 計	20

<薬学部>

東京理科	1
北里	1
東邦	2
東京薬科	1
帝京	3
帝京平成	1
城西	2
新潟薬科	1
明治薬科	4
横浜薬科	2
昭和	3
慶應義塾	1
合 計	22

<推薦入試等>

獨協推薦	1
指定校推薦	16
公募推薦	2
A O入試	3

卒業生数	203
合格件数	478
現 役	294
既 卒	184

【指定校推薦進学内訳 (2017 年実績)】

慶應 (理工1)、早稲田 (基幹理工1・創造理工1・先進理工1)
 上智 (理工2)、北里 (医2)、聖マリアンナ医科 (1)
 東京理科 (建築1・経営工学1)、青山学院 (理工1)
 学習院 (理1・法1)、成蹊 (法1)、法政 (法1)

※上記以外に、東京歯科、日本歯科、立教、中央などから指定を受けています。

卒業式・謝恩会・入学式報告

教 頭 松 本 麻 里 子

平成 29 年 3 月 10 日(金)、快晴に恵まれた良き日に、第 69 回獨協高等学校卒業式が挙行政され、203 名の生徒が巣立ちました。新たな同窓生としてお世話になります。卒業証書授与に続き、渡辺和雄校長の式辞、来賓の獨協学園寺野彰理事長挨拶ほか、ドイツ連邦共和国大使館文化部のアンドレア・フィンケン氏からドイツ語でのお祝いのメッセージを頂きました。また、同窓会から、恒例の記念品が卒業生全員に、さらに、6 名には、特別賞を頂き、柳原副会長から代表者へ賞状と共に授与されました。毎年、同窓会からこのようなご厚意を頂き、卒業生には良い獨協



3 月 10 日 高等学校卒業式

の思い出の一つになることでしょう。彼らに代わり御礼申し上げます。式典後は、ホテル椿山荘東京で謝恩会が開催され、卒業生保護者と来賓、教職員で和やかなひと時を過ごしました。

4 月 6 日(木)午前中、中学入学式が行われ、210 名の新入生を迎えました。寺野彰理事長、犬井正獨協大学学長、柳原同窓会副会長などのご臨席を頂いて、挙行政され獨協の新しいスタートとなりました。



4 月 6 日 中学入学式

第18回獨協同窓会ドクターズクラブ

平成 29 年 2 月 25 日午後 4 時 30 分から、母校小講堂で私谷田貝茂雄の司会により、伊藤公一会長(昭和 51 年卒業)の開会の言葉と創始者である故松島正浩先生(昭和 35 年卒業)への黙祷からはじまりました。例年の母校への寄付も行われ学術講演会は以下の通りでした。

座 長：谷田貝茂雄(昭和 51 年卒業)
演 題：どの診療科でも遭遇する痛みの治療
獨協医科大学 麻酔科教授 濱口 眞輔
(昭和 58 年卒業)

座 長：平田幸一(昭和 48 年卒業)
特別講演：獨協学園の現状と未来
獨協学園 理事長 寺野 彰 先生

濱口眞輔先生からはどの診療科でも遭遇する「痛み」について役に立つ最新の知識を講演していただきました。特別講演では、獨協学園寺野彰理事長から壮大なスケールの「獨協学園の未来」についてのお話があり息をのむ様な未来の獨協に思いをはせました。続いて行われた懇親会は、椿山荘に約 70 名の参加者と、渡辺和雄校長先生、獨協同窓会浅野一会長(昭和 42 年卒業)、歯科医師獨協会から滝川国勝先生(昭和 32 年卒業)、また近々発足する薬剤師獨協会から秋元雅之先生(昭和 48 年卒業)らをお招きし盛大に行われました。特に丸山泰幸先生(昭和 59 年卒業)によるサプライズゲストでダンサーのSAMこと丸山正温さん(昭和 55 年卒業)も参加して「ダンスでリハビリ」などの紹介やスピーチもしていただき大変な盛り上がりで時間のたつ事を忘れてしまいました。来年の当番幹事校は日本医科大学で平成 30 年 2 月 14 日土曜日午後 4 時 30 分から学術講演会を母校小講堂で、午後 6 時 30 分から懇親会を椿山荘で行う予定です。獨協中学高等学校を卒業した医師の参加をお待ちしています。



第18回「獨協ドクターズクラブ」懇親会

この企画は、獨協中学・獨協高等学校の卒業生が経営する「お店」をぶらりと訪ね、お店の様子を皆さんに報告するという新しい試みです。皆様の周囲にも多くの同窓生が経営する同窓生に親切なお店があると思います。ぜひ同窓会までご紹介ください。地域で頑張る同窓生を応援しましょう！

鮭池澤

昭和 56 年卒業 池澤照仁さん

銀座 8 丁目「鮭池澤」で活躍する、池澤照仁さん(昭和 56 年卒業)。本来は「取材拒否」ですが、当日の突撃取材にもかかわらず獨協の思い出を語って下さいました。獨協への入学の動機は、姉上の同級生の弟さんがひとつ上で獨協中学にいたことだそうです。主管は合田先生。ラグビー部に所属し中学 2 年生の時には関東大会で準優勝したそうです。獨協中学高等学校時代は、「勉強きつかった、部活きつかった、でもすごく楽しかった」という事でした。当時は情報科学(コンピュータ)全盛期で獨協大学経済学部経営学科に入学しました。卒業後は日本ユニシスに就職、その後伊豆長岡の料亭から板場の修行を始めました。修業先は、お父さんの営む柏のお寿司屋さんの系列やどなたかの紹介でなく、「修業先は全て自分で決めた」ということに仕事に対する意志の強さを感じました。銀座という土地で営業するその立ち居振舞の美しさとお話は、とても精錬され素敵な格好いい獨協生でした。勿論、「さすが！」と唸る美味しいお寿司を堪能しました。なお、池澤さんは「銀座で勝負したい」若者を募集しています。どなたかご紹介下さい。



所在地：東京都中央区銀座 8-7-2
電話：03-3289-6030
<http://lapizlazuri.net/ikezawa.html>
月曜日～金曜日 18:00～23:00
土曜日 予約に応じて営業

鳥せん

昭和 44 年卒業 花鳥 覚さん

西日暮里駅近くで 40 年近く営業されている焼き鳥屋さん「鳥せん」で笑顔でお客さんをもてなすのは、花鳥覚先輩(昭和 44 年卒業)。忙しい金曜の夜の我々の取材にも拘わらず合間を縫って獨協の思い出を語って下さいました。お生まれは南千住、獨協中学からドイツ語クラスで主管は音楽の上林先生。ブラスバンド部員として運動会で演奏したりまた、ラグビー部でも大活躍されたご様子。卒業後は獨協では珍しい進路である理容学校を出て、昼間は理髪師さんとして働き、夜は鳥せんとは異種組み合わせのマルチな先輩です。当時、数学の古川先生の整髪もしたし、今もって上林先生に焼き鳥を食べて頂いているとのこと。獨協の良さは、人材豊か、みんないやみのない、いつまでもいい仲間であられること。

「獨協に入ったことが心の豊かさ、親に感謝しております」との弁。そして、天野先生の言葉「獨協生は社会の優等生たれ、が今、腑に落ちている」との花鳥先輩の言葉に一同納得しました。忙しい中でもほのぼのできるお店です。



東京都荒川区西日暮里 5 丁目 34-3 新谷ビル 1F
電話：03-3803-5862
日曜祭日は休み 人気店につき要予約

獺 BAKU (BAR)

昭和 42 年卒業 佐藤 廣さん

バー獺は、昨年 1 月に上野御徒町にオープンしたカッコいいお洒落なお店。オーナーの佐藤さんは、ドイツ語クラスで野球部で活躍。一昨年までは、VAN SHOP KURAMAE(獨協通信 87 号で紹介)のオーナーで同窓の山藤幹男さんが CEO を務めるケントジャパン株式会社の社長でした。

そんな縁で野球仲間や往時の IVY ファンの集う店として二次会向きの店として盛況。価格も全体にリーズナブルで旧交を温めるには良いところ。来店の際には、「獨協 OB です！」と一言。



台東区東上野 1-25-8 東上野プロシャンビル 1 階
電話：03-5826-8344 携帯：080-5404-2727
JR 御徒町駅北口 徒歩 5 分 営業時間：毎日 19 時～

Zürich 日本旅館 うさぎ山 繁盛記

第1回

倉林 正文 (昭和 53 年卒)



Widen というチューリヒ市隣接の地方の村に住み始めて暫くして膨れて来た下腹の対策に裏山 Hasenberg (兎山) を走るようになった。標高 750 メートルの頂上の古いスイス・レストランのテラスからは、早朝の澄んだ空の果て、スイスアルプスの全稜線が少しづつ朝焼けに浮き上がる様が目守れる。

ここに旧館を取り壊して純和風の客室を備えた小規模旅館「Ryokan USAGIYAMA / Hotel HASENBERG (旅館兎山)」を新たに建てて直ぐの頃、53 年卒ドイツ語クラスの主幹の故合田先生に奥様と還暦の機会にご投宿頂いた、らしい。

ここに旧館を取り壊して純和風の客室を備えた小規模旅館「Ryokan USAGIYAMA / Hotel HASENBERG (旅館兎山)」を新たに建てて直ぐの頃、53 年卒ドイツ語クラスの主幹の故合田先生に奥様と還暦の機会にご投宿頂いた、らしい。

実はつい数年前まで、女将である家内は、「自宅には良くお泊り頂いたのに、旅館にはどうしてお越し頂けないのだろう」と勝手に先生を恩師と仰いでいた私が愚痴っているのを何度も聞いている。獨協生でない女将にご投宿の記憶がないのはまだ理解できるが、こんなに嬉しいはずの出来事の記憶が飛んでしまうことなどあるのだろうか。

二年前、先生が亡くなられた後、奥様にご来駕の際の館内で撮られたお二人の写真をお見せ頂いた。「倉林が頑張っているからと。主人はとっても喜んでいたのでよ。」私に言葉は無かった。今なら一升瓶を持って、または地元の地ビール小樽を持って部屋に上がり込み、嫌と言うほど苦労話を聞いて頂き、色々車でお連れしたいところも沢山思い当たる。自慢の源泉露天風呂からスイス・アルプスを一望して頂けたのだろうか。どのおもてなしが出来ていたのか、未だその一切を思い出せないでいる。有り得ないことである。あれば最高の思い出に成った筈ではないか。この不遜を先生はきっとお許しにならないだろう。

ヨーロッパには未だ他に温泉旅館はない。14 年前の開業時、飲食店だけでは都市圏から若干外れ、チューリヒから 25km の処にある兎山は採算が取れないだろうと踏んでいた。ただ、ヨーロッパ初の RYOKAN ならば「食」だけではなく「住」、仲居連に着物を着用させれば「衣」も含めた日本の「衣食住」の文化を提供することになり、受け入れられるだろう、という目測で小規模でも本格的な和室を擁した旅館の建設に踏み切った。日本から宮大工さん達に来てもらい、大コンテナで建材全ての許認可の申請を自前で履行して取り寄せざるを得ないことになった。頼みにしていたドイツ在住の日本のゼネコンや建設業者から全く相手にしてもらえなかったからでもある。

前経営者はオーナーシェフでレストラン経営のプロであった筈で、そのプロが地所を売却せざるを得なかった場所柄ならば、館内のレストランも特異性のあるものでなければ売り上げは期待できない。本懐石レストランは当時皆無だった。今もスイスには当店以外にはない。当時はまた、今や筍のように現れた寿司バーもなかった。あらゆる伝手を探って本懐石和食調理人と寿司職人を日本から招聘した。

仲居職は当地では単にサービス職と同等扱いで不用意な外国人就労の増加を制限するスイス労働局から簡単にビザを取得できない仕組みの為、当時の労働大臣にまで面談を要請し、「お茶」「お華」「着付」の許状又は履修証明を提示できるものに限り「制限付専門職認定」を得た上で漸く三名を日本から雇い入れることができた。更に余談だが、家内は人前に出るのを最も苦手としていて、女将職の受諾を得るまで丸々一年の説得を要した。

どんな事業にも然るべき苦労はつきもの。とはいえ、スイスどころか EU 域内に相談できる先もなく、小規模なファンド・マネジメント会社を運営し、管理ファンドの運用をしながらの全くの畑違いの旅館事業の開始は須らく凡人の私のキャパを明らかに超えていたと思う。

漸く竣工・開業に漕ぎつけると、兎山の坂を埋め尽くして登ってくる客数は想像を絶した。が、彼らは旅館の客でもなく、懐石や寿司の客でもなかった。“Go mal go luege” スイスジャーマンの「まあちょい見に行くべ」の典型で殆どがドリンク客だった。



素人考えで午後の時間を広告宣伝費よりはと解放したら、ランチタイムからディナータイム入りしてもドリンク客にレストラン階を占有されてしまった。休憩時間も一切なく、従業員は疲労困憊を極め、折角集めた人材も四散した。

懐石など知る人はまず皆無で、鉄板焼きがない和食屋は和食レストランに非ずと評され、寿司のシャリが温かい寿司など寿司にあらず、冷たい寿司こそ寿司であり、生魚にバクテリアが繁殖している、とクレームが入った。14年後の今日には想像できないことでもある。

想定していなかった展開と理不尽な反響に対応しながら、深夜はファンドの運用に当たっていた。折からマーケットはリーマンショックへ傾斜していた。

そんな余裕のない、混沌混濁した中で合田先生ご夫妻をお迎えしたに違いない。何も見えていなかったのかもしれない。私の中ではずっと先生に来て頂きたいと思っていたわけで、その思いに今も変わりはない。今、Michelin や GaultMillau 等の有名ガイドに載るようになり、旅館としてではないが、和食レストランとして若干は膾炙して来ている。金融から身を引き、旅館業に特化した今、先生がひょいと来られたら、持てるもの全てでおもてなし、歓待できると思う。お客様が本当に喜ばれるおもてなしは、私たちの心が入っている時だろうと実感する。私の記憶から先生がご自身のご来訪を消されたのではないか。そう思えて仕方ない。お目にかかった最後に、「それではアカンやろ」と教えられたように思えてならない。 (続く)

コラム・ドイツ

ヨーロッパ tram 巡り 第3回 Strasbourg

谷口 有三 (昭和 53 年卒)



ヨーロッパは東はロシア、西はポルトガルまで津々浦々まで tram が走っているため「独協通信」が週刊誌にならない限りはとても紹介しきれない。まして、今世紀になって環境保護と交通弱者の移動手段確保の観点から小規模都市にまで tram が続々と開業している。さて、今回はどこにしようか、また今後の連載方針を考えるべきだ。やはり、独協だからそこは敢えてドイツ、またはドイツ語圏、ドイツに関係するところに拘ることにした。もっとも今の母校はドイツに留まらず国際化教育の強化のおかげで部活の遠征で韓国や、英語研修で英米などに後輩たちがどんどん世界に羽ばたいている。OB としてはたまらなく嬉しい。前置きが長くなったがフランス、アルザス地方ストラスブールを訪ねてみたい。ここはドイツとの国境がありドイツ語地名ではエルザス地方、シュトラースブルグ(街道の城)と呼ばれている。たぶん、この街のことを知ったの小学生の頃だろうか、教科書にアルフォンス・ドーテの『月曜物語』に「私がここでフランス語の授業をするのは、これが最後です。普仏戦争でフランスが負けたため、アルザスはプロイセン領になり、ドイツ語しか教えてはいけなくなりました。これが、私のフランス語の最後の授業です。」だった。とにかく戦争になるたびにドイツ領からフランス領、そしてまたドイツ領へと国が変わった。まず神聖ローマ帝国の時代にドイツ領、ルイ 14 世の占領でフランス領、その後は普仏戦争でドイツ領。第一次大戦のドイツ敗北で再びフランス領、1940年のドイツ軍の侵攻でまたドイツ領、最後には1944年にドイツ軍撤退で最終的にフランス領になった。そんなことから可哀そうな街というイメージだ。しかし、いまこの街



を優雅に走る窓がひと際大きな tram は平和のシンボルそのものだ。車内にはドイツ語、フランス語両方の話し声が響き、車窓に目を向ければ戦争はもう繰り返さないと云わんばかりの欧州議会堂、独仏が融合した歴史的風景の中を両国の警官が一緒にパトロールしている。さらにこの会報が発行される頃には tram がライン河を越え対岸のドイツの小都市ケール市 (Kehl) まで乗り入れるそうだ。その距離は僅か 2.7 キロ。しかしながら、開通式にはドイツのメルケル首相とフランスのオランド大統領が出席するという話も出ている。やっと訪れた平和な時代を実感できるこの街を tram でぶらり途中下車をしながら両国の文化が融合したグルメに舌鼓を打ち、歴史探訪をされてはいかがだろうか。

お詫び 前号ではボルツァーノの tram を紹介する旨記載しましたが、内容を変更させていただきました。

フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を授賞して

河崎 健 (昭和 60 年卒)

昨年、ドイツ連邦共和国よりフィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞を受賞し、11月17日に京都大学でガウク前大統領より表彰していただきました。この賞は、日本とドイツにおける「文化および社会のよりよい相互理解に特別に貢献し、学問上すぐれた業績をあげている」日本人研究者1人に毎年授与されるもので、私の場合、早稲田大学で執筆した博士論文「ドイツの政党の政治エリート輩出機能」など、これまでの研究業績が評価されたためです。

日本では政治家の養成が難しいといわれますがドイツはどうなのか。このテーマを研究するため、大学院時代に留学先のボン大学でドイツ連邦議会議員のインターンとして2年間ある連邦議会議員の事務所に入り、様々な政党の議員や職員、選挙区の関係者に話を聞きました。インターンとしては外国人の私はあまり役に立たなかったのですが、幸い私の雇い主の議員が私の研究に理解を示してくれたのです。その間国政選挙もあり、選挙戦を観察し再選の祝賀会にも同席させていただきました。この時以来の事例研究と、当選後の議員の昇進構造を数量的に分析した研究を博士論文にまとめたものが、今回の受賞につながりました。

これまでの政治学の研究が評価された訳ですが、その下地は獨協在学時代に学んだドイツ語です。面倒な

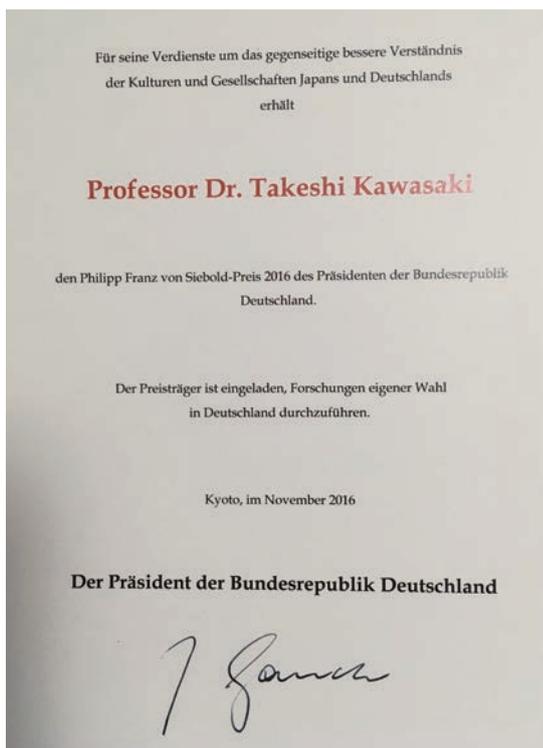


河崎先生（左）と同窓の井手久雄氏（右）

ドイツ語学習を楽しくしてくれたのは一緒に学んだ同級生であり、個性豊かな先生方、そして獨協の自由な校風だったと思います。あくせくしない何となくノブルな獨協の雰囲気のおかげで、元来いい加減で面倒くさがるの私も6年間皆と楽しく過ごせました。1組にはドイツ語専攻と英語専攻の生徒がいて、ドイツ語専攻の33人とは6年間同じクラスでした。数年前の同窓会で30年ぶりに多くの面々と会いましたが、皆年相応の貫禄はついたものの、一同に会するとあの獨協の気ままな雰囲気が蘇り、ほっとした記憶があります。今回、獨協通信に私の受賞の報告をしてくれた井手久雄君は中学1年時の英語専攻の同級生で大学も同じだったため、いまだに仲良くさせてもらっています。先生方にも大変お世話になりましたが、とくにドイツ語科の前田信輝先生、柴田千秋先生、高橋幸雄先生、そして高校の主管でいらした合田憲先生、さらに音楽の上林英雄先生とは親しくさせていただきました。

現在、私は上智大学外国語学部ドイツ語学科というところに勤めており、図らずも先生方と同じような職業に就いております。同学科は私自身も学んだところであり、上智の授業などでドイツの政治に興味をもったことが早稲田大学大学院政治学研究科に進学するきっかけになりました。

ドイツ語は使用地域が少なく使い道が限定的です。しかし近年は移民が増えたため、ドイツ語を学ぶ外国人が多くなりました。難民政策をはじめ、まだまだドイツという国から学ぶことは多いと思います。在校生の皆さん、ぜひ2外でドイツ語を学んでドイツに触れてみて下さい。



昭和 19 年卒ドイツ語組 獨協五三会

平成 28 年 11 月 16 日、例によって東中野の日本閣で行いました。10 名を予定していましたが参加した会員は 6 名でした。

私達が獨逸學協會中學校を卒業したのは、戦時中の日本が勝ち進んでいると信じられ、国内は平穏な雰囲気の時局でした。そのお陰で、ドウリットルの単騎空襲が一度あったにせよ何ということもなく、軍事色濃厚とはいえかなり自由な旧制中学の 5 年間を、完璧に通い了せた最後の学年だったのではと思いにふけり、また尾島君の付き添いで参加された紅一点、元宝塚小乙女幸さんの素晴らしい歌声を聴き、野ばらなどの合唱をして会話の練習より歌う方が多かったザール先生を偲び、最後に校歌を歌い心許なき期待を秘めて再会を約し賑やかに散会しました。 (記：原 和雄)



昭和 20 年独 5 卒 「芽城会」ミニクラス会

1 月 18 日 (水) 昼、上野で我ら芽城会メンバーによるミニクラス会を開催した。発端は、下町育ちの幹事が「独協通信 87 号」の「獨協ぶらり旅」に紹介されている中国料理「茶寮」に目をつけたことに始まる。

トントンと話がすすみ、同窓会員が経営する店でクラス会ができる、というおもしろい企画となった。正に、「獨協ぶらり旅見聞記」である。当日の出席者は、神山、平沢、鹿島、牧、畦森、佐藤、馬場、黒沼の 8 名。店は御徒町・上野駅に近く、下町の風情を残す静かな所。少し分かりにくい、小さな庶民的なお店で常連客が多いのだろう。円卓のある個室で美味しい料理の数々に、旨い紹興酒、気さくな奥さんのお世話でかなり盛り上がった次第。店主の猪田正道さんは昭和 42 年卒で、同窓会の浅野会長と同期とのこと。帰途、近くの静かな喫茶店で「独協通信」が縁で愉快で楽しい一時であったことを思いながらコーヒーで一服、散会。母校と同窓会の発展を祈る。 (記：黒沼昭夫)

昭和 25 年卒ドイツ語科 大豆会

大豆会は平成 28 年 10 月 6 日 (木)、例年のごとく霞が関ビル 35 階けやきで開催された。減少傾向に歯止めがかかり出席者 12 名であったが、学級で一番のさわやかなスポーツマン、常にエースピッチャーだった渡辺 進君の死を中嶋君から知らされ、一同悲しみに沈んだ。次回の大豆会は平成 29 年 10 月 12 日 (木)、中嶋君の提案により“我々後期高齢者が、華麗に健康を保って、超高貴高齢期に突入する方法”をテーマに私が珍説を開陳する予定である。例年赤字転落の危機にされされていた本会会計も、今は亡き旧友 鈴木規充君の令夫人 和子様の再度にわたるご寄付により潤沢な状態である。改めてここに銘記し、心から感謝申し上げる。 (記：本田 光芳)

出席者：後列左から、本田光芳・染谷 尚・石川 洋・齋藤義治・松田 務・中嶋眞治・中村雅美。
前列左から、高橋邦武・西田隆一・本田鬻子・鈴木和子・橋本道夫 (敬称略)

追記、次回大豆会は平成 29 年 10 月 12 日午前 11 時 30 分から午後 3 時 霞が関ビル 35 階レストラン・ケヤキにおいて開催となっております。



昭和 27 年卒 花の二七会

平成 28 年 9 月 17 日、飯田橋レストラン「トリノ」において昭和 27 年卒業生の集い「花の二七会」を開催しました。出席者 14 名、皆さん気持ちは卒業当時



の若さを保っています。仕事を持ち現役として働いている者、地域活動に従事している者、「家事」に従事する者、旅行ゴルフなど趣味を楽しむ者、年齢相応に健康に関する話など、それぞれ現状報告があり、来年の再会をたのしみに閉会しました。（記：泉水義和）

昭和30年卒 同窓会

10月15日（土）のクラス会は皆さんのご希望により南国酒家目白店で辻武雄（元獨協中学・高校教師）のもとで、和やかな雰囲気の中懇親会が行われました。柴田耕治様には、この七月に奥様が亡くなられてお忙しい中、ご出席下さいまして誠に有難うございます。謹んで、ご冥福をお祈りします。懇親会では多くの話題に笑いが有って、時の経つのを忘れる位営業時間終了まで、続けました。今回は傘寿の記念で、行いました。これからは米寿に向けて、健康に留意しつつ頑張らしましょう。（記：森田）



昭和31年卒 中学1年1組クラス会

「友人 歡居して 富膳を 為す」

「小人 閑居して 不善を為す」

獨協ぶらり旅「和食・島田洋服店」を読んで友人が訪れて来た。昭和25年4月中学入学の1年1組の仲間。70余年来の親友だ……集まればやっぱり獨協！花咲か爺さんになって思い出話が満開になった。

月曜日の1時間目は村田二十一教頭の国語の授業。「一年一組、無遅刻無欠席、天気も上々非常に気持ちが良い」と言って黒板に書いたのが「目に青葉、山ほととぎす、初がつお」だった。

以前は太って居られた様で绰名はタヌキ。中学校舎（体育館）脇の急坂を下った左側に二階建てのご自宅が有ったので、エッチラオッチラ上って登校されていたので、これをタヌキ坂と称していた。なかなかユーモアのある先生で、朝礼の時、本を沢山読むようにと言われ「しかし八百八タヌキは読まぬように」で大爆笑でした。当時八百八タヌキの映画が評判でした。

担任は数学の古川誠太郎先生。社会の小川先生と一

緒にNHKのアナウンサー試験を受験しに行きました。その後も担任でした。

数学と言えば高校の1年の時刀根先生が就任されました。天野貞祐先生が校長になられ、若い優秀な先生を東大から招聘された三人の一人です。他に平野、神田の諸先生。今日もお出で頂きましたので、先生を囲んで高校の話で夜が明けるまで続きそう……

刀根先生は今も現役、先年アメリカでの数学学会で論文発表なされました。もう米寿も近いのではないかな。

（記：島田）



昭和38年卒 古川38会

2016年度の古川38会は9月24日（土）高輪和彊館にて開催いたしました。今年も横山武人先生をお招きし、またゲストとして1組の武井義行君にもご参加いただき、総勢25名となりました。これは過去最高の出席者数でした。松丸忠良君のおぼつかない司会でスタートいたしましたが、何とか会は順調に進行し、例年のごとく全員が近況報告の中、話題は健康に集中したように思われます。何しろ来年度は全員70歳となりますので、皆さん何かと体が痛んでおり、今回の欠席者の中にも何人かは病床にいます。古希の祝いの会は学園前の椿山荘での開催を予定することを確認し、無事散会となりました。（記：遠藤）



昭和40年卒（ドイツ語クラス）獨新会

我々の高校2・3年生の時に主管であられた小平晋二先生が今年喜寿を迎えられた。そして我々の年齢も

早 70 年を迎えている。そこで本年は、先生の喜寿のお祝いに乗じて我々の古希の祝いも兼ねた「獨新会」として、例年の如く赤坂クラブにおいて平成 28 年 7 月 29 日（金）18:00 より開催した。参加者は 16 名であった。

喜寿のお祝いとして、先生の誕生日と獨協就職時の新聞記事そして高2の修学旅行写真とをアルバムに編集してお贈りした。修学旅行の思い出話の他、例年通り各々の近況や健康などを報告した後、喜寿を迎えられての先生の心境や健康・現況などのお話を伺った。歳を重ねた今、特に健康問題が中心の話題となるのは自然のことで、お互いに不摂生をせず長生きをして老後の人生を豊かに過ごそうではないかとの話に盛り上がり、次回また元気で再会する事を誓って閉会した。

（記：桜人）



昭和 35 年中学入学 1 年 1 組 神田クラス会

今年は 10 月 15 日、土曜日に、高輪和彊館（わきょうかん）へ 10 人が集いました。ここは日立金属の迎賓館ですが一般にも開放されています。広々と静かで落ち着いた和室に、私たちはゆったりと旧交を温めることができました。

この日は神田先生の祥月命日であり、このクラス会連絡で吉田均君の訃報を知ったこともありまして、献杯から始まりました。それから 9 時までの 3 時間、あちこちで思いのままに談笑いたしました。参加者は 10 人だったので、各人の近況報告はいくら脱線しても時間はたっぷりでした。こんな流れでいつもの超マンネリズムの中、楽しく終わりました。

獨協学園同窓会役員の中村昭美君から全員に、獨協中学・高等学校新校舎落成記念「歴代校舎絵はがき」が配られました。私たちはこのうちの曲がり校舎で 6 年間を過ごしました。校舎の写真を見ていると、50 年ほど遠くなった思い出が懐かしくよみがえりました。

来年、私たちは 70 歳、古希になります。次回は中村君が「古希合同クラス会」を企画いたします。幹事は中村君です。中村君、案内・連絡をよろしくお願いたします。

平成 29 年 9 月 24 日（日） 17 時 椿山荘

この日は獨協中学・高等学校の文化祭最終日です。文化祭は 16 時に終わりますので見学される人は 4 時までにご覧ください。（記：奥田 博）



昭和 41 年卒 中学 3 組クラス会

平成 28 年 11 月 12 日（土）にヴァージンカフェ六本木にて獨協中学 3 組のクラス会を開催しました。冒頭 10 月 31 日に亡くなった江田 明彦君の冥福を祈り黙とうを捧げました。2 年前のクラス会に体調があまり良くない中出席してくれたのが最後になりました。その後かなり元気になったと聞いていただけに無念です。今回の出席者は横山先生を含めて 11 名でしたが、体調不良との理由で欠席した人が何人かいるのが気になります。横山先生はあいかわらずお元気で、お酒はもちろんタバコもまだ吸われていて、80 才を超えたとはとても思えません。江田君との思い出、健康状態、孫の話などであつという間に 3 時間が過ぎ、来年も元気で再会できることを願って散会となりました。

出席者は写真の左から 佐伯、小野、渡辺、中村（修）、行徳、横山先生、五十嵐、成川、三本木、谷山、小林（記：渡辺）



昭和 41 年卒 第 15 回 ミニクラス会

場所：有楽町 中華料理 慶楽

第 15 回ミニクラス会を平成 29 年 1 月 28 日（土）に開催しました。

毎回幹事は平岡君がインターネットと電話で連絡をして昭和 35 年中学入学時 2 組を中心に 1 組の一部のメン

バーと開催しております。今回の参加者は上原君、石田君、加藤君、島田君、菅谷君、土屋君、巢瀬君、相馬君、立野君、山口君、横山君、平岡君、と中村の13名です。

年2回、1月と7月に行っております。夏の時は木内君が久しぶりに参加してくれました。残念なことに常連参加の茂木君と岸君が昨年急逝して参加メンバーが減ってしまい、寂しいかぎり。献杯の後、獨協時代の話は尽きることなく時間を忘れてしまう程、盛り上がりました。次回は**平成29年9月24日(日)**に同期古希の会を5つのクラス会幹事の方々のご賛同いただき、17時から目白の椿山荘で開催いたしますので、奮ってご参加ください。(記：中村昭美)



昭和41年卒 第52回 獨協1月会

場所：山田屋 太郎の店(水道橋)

今回も幹事は、私中村が引き受けました。残念ながら今年も橋本先生はご欠席でしたが、出席者は、小杉喬志君、斎藤幸一君、福島広樹君、下村博一君、下山潔君、藤井哲夫君、堀江重之君、森田芳和君、中村昭美の9名の参加です。

昨年9月に1回目からのメンバーの吉田均君が急逝したので、先ず彼を偲んで献杯。場所が良かったせいかいつも参加して貰えない、斎藤君や早稲田大学女子サッカー部の監督の福島君も優勝したので参加してくれました。山下君も下村君も時間を作って参加してくれました。又、残念ながら昨年は元気に参加してくれた佐藤君が肺癌で入院療養中、下山君がいろいろと看病してくれています。

今年は70歳になりますので、古希の会を**9月24**



日(日)に椿山荘のタワー階のカトレアで17時から開催いたしますので昭和35年中学入学組と昭和41年高校卒業の仲間の参加で行いますのでよろしくお願い致します。参加及び問い合わせは獨協同窓会事務局に月曜日と木曜日の1時から4時の間にご連絡ください。(記：中村昭美)

昭和43年卒 ドイツ語クラス レポイカ会

平成28年6月17日(金)に数十年ぶりのクラス会を上野の「黒船亭」で開催致しました。お店のご主人の協力もあり、時間制限なし、飲み放題という好条件でのクラス会でした。

このクラス会のキッカケとなったのは、長年アメリカ在住の同級生、中村直喜君が帰国するというタイミングでのことでした。平日ということもあり、仕事のある者、地方在住者は参加不可能とのことでしたが、総勢22名が集まりました。そこには卒業後やはり数十年ぶりにお会いした担任の太田四郎先生も。また卒業時42名だった級友の中には既にご逝去された方も数名。一昨年亡くなった渡辺明君の奥様は、亡き夫の同級生たちの顔を…、ということで参加されたり、夫婦同伴者がいたりした22名でした。

これを機に改めて住所録作成に取り掛かったのですが、残念ながら所在不明者も数名、残念ですが連絡が取れないままのクラス会となりましたが、数十年ぶりの顔合わせということで、君誰だっけ?という言葉がアチコチで耳にする有様。確かに頭は薄いわ、太ったり痩せたり、中学・高校と6年間一緒であっても寄る年波にはかなわなかったようです。でも懐かしい顔を久しぶりに見て、一気に高校生に戻った気分を味わえたひと時でした。来年の平成30年は卒業後50周年とか。そろそろ50周年記念レポイカ会の準備に取り掛からねば…。(記：土屋純一)



昭和46年卒 7組クラス会

S46年卒7組のクラス会を平成28年5月17日、同級生の黒澤雅之君が南浦和で経営するダイニング

バー「程々」で開催しました。主管の石井先生含め11名が参加して高校時代の話しで盛り上がり石井先生もお元気で、来年のクラス会を約束して散会しました。この「程々」は南浦和から2分の所で食事が出て飲むお店です、女性同士でも気軽に入れ連日混みあっています、獨協の関係者だと伝えれば何かサービスがあると思いますので近くの方は是非ともご利用下さい。
(記：坂下)



昭和 49 年卒 有志クラス会

平成 29 年 2 月 25 日～26 日恒例の熱海に行きました。当日は2日間、快晴で大変楽しい2日間でした。秋田から毎回参加の植村には一同頭がさがります。次回の旅行は **9月2日～3日** に開催します。みなさんも是非参加して下さい。
(記：滝沢弘明)



昭和 52 年卒 中国地方会

岡山発・卒業年度は違っても、きっかけは、独協通信です。同じ獨協愛の仲間は、現在、昭和 50 年・52



年・60年卒の3名です。東京より700km離れた、ここ岡山で親睦を深めています。同窓の皆様方、ご連絡お待ちしております。
(記：平山)

幹事：平山 52 年卒 (090-3963-1672)

昭和 59 年卒 第1回 同窓会

平成 28 年 7 月 9 日於：椿山荘

「Be quiet!」、来賓の富岡 卓先生 4 組主管の第一声で会は始まりました。みんな先生が何と言ったか一瞬分らず、しかし1～2秒の後会場がざわつき、全員が先生の話に耳を傾けました。富岡先生は、私たちの修学旅行での大きな集合写真をお持ち下さりその時の思い出を話してくださいました。

今回、卒業後 32 年も経ってから同窓会を開こうというきっかけになったのは、飯田哲也君、更級元君、直長圭植君、丸山泰幸君、山中聡君、山根吉人君と小生が食事会をした時に同窓会開催の発起人になり今年こそは実行しようと日時を7月9日、場所を椿山荘に決めたため具体化しました。

総勢 70 名の同窓生が集まり、台上に上がり一人一人近況を話し集合写真を撮影し一次会を終了しました。二次会は同会場で行いお酒も入っているせいか皆大声で昔話に花を咲かせていました。今回連絡が来なかった方、予定が合わなかった方、数年の内には第2回を行いたいと考えています。今回参加した方にこの話を聞いたら是非案内状を送りますので連絡先を教えてください。
(記：吉松栄彦)



平成 17 年卒 富井先生を囲む会

三月吉日、恩師富井先生をお招きし、懐かしの池袋にて食事会を行いました。

卒業して一回りの年月が経ち、結婚した者、子供が産まれた者、この春で一旦仕事を辞め世界一周にの旅立つ者などがおり、自分たちの成長を実感したりもしました。また富井先生からは参加者一人一人に対して思い出と共に温かいお言葉を頂き、学生時代に戻った

ような、懐かしさを感じる宴となりました。

今年は私たちが30歳になる節目の年という事もあり、学年全体の大規模な同窓会も企画する事も決まりました。またその際には、良いご報告が出来ればと思っております。



平成18年卒 志村会

平成28年12月10日、池袋にて平成18年卒業2組の同窓会を開催しました。志村会は、平成21年3月に行われた第1回(73号)を最初に、同年12月の第2回(74号)、平成23年の第3回(78号)、平成24年の第4回(80号)と過去4回開催し、今回は5回目となります。出席者18人と志村先生の19人であったが、LINEを使っての告知であり、連絡先が分かる人達だけでの開催だったにもかかわらず比較的多く参加していただけたと思います。

卒業からちょうど10年が経ち、久々の開催でしたが、初めて同窓会に参加してくれた同期にも会え、思い出話に花が咲きました。来年度には全員が30歳をむかえる年ということもあり前回とは家庭環境は大きく変わり、結婚し子供が生まれた人も何人かいましたが、やはり当時の同級生と会うと昔を思い出し、当時と同じようにふざけあえる素晴らしい同期達でした。まだまだ若い私達なので今後もこのような同窓会を続け、より多くの出席者を集められる方法を模索して行きたいと思っております。集まってくれてどうもありがとうございました。

さて、少々告知になりますが、この場を借りてさせていただきます。全員が30歳をむかえるというこ



ともあり、4年振り3回目の学年同窓会を開催したいと思っております。現状では、本年9月2日に開催することを予定しています。今回も今のところLINEで出席を取っているため、一切連絡が来ていない人もいますかと思っております。節目の年での開催なのでできるだけ多く出席して欲しいので、まだグループに参加していない人を招待してどんどん参加してください。アカウントを持っていない人についても何らかの形で連絡を取りますのでよろしくお願いいたします。(記: 本田)

バスケットボール部OB会

今年1月19日(日)に渋谷で開催、参加者は6世代18名に及んだ。OB会と呼ぶにはいささか小規模であり、今度結婚する者のお祝いも行ったりと、様々な側面を持ち合わせた大変盛り上がった会となった。バスケット部の結束の強さを再確認しつつ、次回はまだもっと幅広い世代、多くの人で集まり、定期的に会う機会を設けようと誓いお開きとなった。(記: 吉川怜)



剣道部OB会 獨協戸隠会

平成28年12月18日、剣道部稽古納の日に合わせてOB会を開催いたしました。稽古納めは本校体育館にて毎年恒例の中学高校生全員による紅白戦に始まり、引き続き日名子先輩によるとても貴重な居合の形をご披露頂き、最後は学生からOBまで全員が参加し大変気合いの入った合同稽古が行われました。稽古後には校内の教室で、ご父兄に協力頂きOBと学生による懇親会が開かれました。午後は目白通りの「入り江」



にて顧問の河野先生、鈴木先生と齋藤師範をお招きし O B 会が開かれ、例年のことながら世代を超えて楽しいひとときを過ごすことができました。当日は O B 会に山口 (S 46 年卒)、井上 (S 48)、山本 (H 19)、渡辺 (H 19)、大宅 (S 54) が出席し、稽古納には上記に加えて日名子 (S 45)、北原 (H 22)、清水・名取 (H 24)、坂本・石井 (H 25) (敬称略) の総勢 11 名が参加いたしました。(記：大宅正起)

柔道部 O B 会 送別会・熊田先生定年退職お祝い会

平成 29 年 3 月 12 日 (日) 母校柔道場において、毎年恒例の現役卒業生の送別会が執り行われた。ご父母の方々にもご観覧いただく中、卒業生対現役部員の送別試合、送別稽古、送別セレモニー、記念撮影と滞りなく進行し、今年は 6 名の卒業生 (新 O B 会員) が誕生した。参加した 20 ~ 50 歳代の O B 諸氏は、ともに柔道着に着替えて、現役諸君と同じ畳の上で稽古や観戦をさせていただいた。

その後、卒業生と現役諸君はレストランで食事会。

顧問の萩野元祐先生、熊田修二先生と O B 諸氏は、丸の内「自由が丘グリル」に会場を移し、懇親会を催した。今回は、14 年にわたり顧問としてご尽力下さった熊田先生が、3 月末で定年退職されることから、現役当時お世話になった年代の O B に多数ご出席いただき、先生の「定年退職お祝い会」を併催し、O B 会からの感謝の気持ちをお伝えした。出席者は総勢 15 名。現役当時の懐かしい話で会は大変盛り上がった。

こうして、送別会・お祝い会と続いた有意義な 1 日は、楽しく和やかな中、無事終了した。

(記：鈴木成之)



昭和42年卒 古稀同窓会

平成 29 年 3 月 18 日、昭和 42 年卒の古稀同窓会を開催しました。

10 時 30 分、高校に集合し、獨協同窓会の柳原副会長の「O B の連携を深めたい」旨、ご挨拶のあと、学内見学を行ないました。その後、懇親会会場である椿山荘に場所を移し 12 時より集合写真撮影後、司会、須藤明弘君の開会の辞に続き、43 名の物故者に黙祷を捧げました。次いで古希同窓会代表世話人の浅野一君により、「我々が今年、数え年で古希にあたり、また卒業後 50 年という節目の年でもあり、約 1 年前から幹事中心に古希同窓会の開催を計画した」旨の話がありました。続いて司会より、来賓の糸井透先生、本田

稔祐先生、横山武人先生、吉田卓司先生及び獨協学園の渡辺校長、笠井副校長、松本教頭の紹介があり、ご挨拶で渡辺校長より「種々同窓会が開催され、男子校の良さ」との感想をいただきました。次いでドイツ語クラスまとめの野澤より、古希にふさわしく 70 名余り出席の報告後、乾杯の発声を行い、歓談に入りました。

50 年の時を経て、互いの現況や、健康状態、家族の話に加え、むかし自分をいじめた張本人を発見して話すなど、あちこちで会話が弾みました。しばし歓談の後、獨協大学 (YERBA BUENA) による華麗でにぎやかなフラメンコダンスが演じられ、会場の雰囲気も盛り上がりました。続いて地方 (山梨、愛知) から出席の 3 名のスピーチ後、各先生より祝辞があり、「獨協は何より人間教育の場であった」とのことでした。

閉会の辞として、英語クラスまとめの海田正則君より、「体調が悪かった先生が、盛会になるとのことで無理を押し出席された」とのエピソードが披露され、楽しかった同窓会もお開きとなりました。

(記：野澤 正)



平成 29 年度 クラス会・同期会開催予定のお知らせ

- 卓球部 OB会 部員・OB合同練習会 6月17日(土) 13:00～ 母校 講堂
講演会・総会 15:00～ 母校 小講堂
総会懇親会 18:00～ 椿山荘 ギャラクシー
(お問い合わせは、47年卒 佐藤真人まで 090-2477-1248)
- 平成18年卒 志村会 学年同窓会 9月2日(土) 未定
- 昭和41年卒 古希の会 懇親会 9月24日(日) 17:00～ 椿山荘 カトレア
- 昭和25年卒ドイツ語科 大豆会 10月12日(木) 11:30～15:00
霞が関ビル 35階 レストラン・ケヤキ
- 第19回 獨協同窓会ドクターズ・クラブ学術講演会・懇親会
学術講演会 平成30年2月14日(水) 16:30～ 母校 小講堂
懇親会 18:30～ 椿山荘

(この欄は、会員相互の各種会合の告知にご利用ください。)

獨協三師会のお知らせ

この度、獨協同窓会の医師、歯科医師、薬剤師の皆様との親睦を図るため、下記日程にて、獨協三師会を開催する運びとなりました。

初めての開催となりますので、お知らせ等不手際があるかと存じますが、是非ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。



記

開催日：平成29年5月20日(土)

学術講演会：母校4F小講堂 17:00より

講師：金子明寛先生

(東海大学医学部附属病院口腔外科教授)

懇親会：椿山荘「ペガサス」19:00より

会費：10,000円

加藤隆久 (S48卒)

谷田貝茂雄 (S51卒)

新井雅安 (S46卒)

私の近況 卒業 10 年

●平成29年3月30日で満87才になり、当日で現役を退くことにしました。今後はサムウェル・ウルマンの詩「青春」を座右の銘とすることにしました。

<安藤元久(昭22卒)>

●今回、独協通信5月号に“昭和22年卒業の中から無作為で抽出された者”に私が該当したとかで、何か書くようにとのご依頼が有りました。旧制「獨逸学協会中学校・獨逸語科」昭和22年3月卒業の鈴木伸と申します。ご指定のあった原稿締切日が「3月10日」とあって、これが昭和20年(1945年)の東京無差別大空襲に日に当るのも、何か不思議な思いがしております。

戦前から戦中にかけて、3月10日は日露戦争の勝利で奉天入場を祈念した『陸軍記念日』に当たり、折から春一番の強風が吹く季節でもあったので、巷間、焼夷弾攻撃で狙われる危険性が高いと噂されていましたが、的中しました。

「イモカンとニコトン」(退役准尉の奥田教官と漢文の相島滋教諭のあだ名)がわかると言えば、同期の諸兄は直ぐピンと来るでしょう。私のあだ名は「Fritz」(獨逸語の教科書に出てくるRattenfamilie 3兄弟の末っ子)でした。獨協に入学したのは昭和18年4月。間もなく18日(土)午後、『ドゥリットル中佐ひきいるノースアメリカンB25の東京初空襲を受けます。この時の16機中、獨協上空を超低空でかすめた1機が、鹿島灘から侵入して東京上空を横断したドゥリットル中佐操縦の1号機でした。以来敗戦まで空襲が続きます。最大規模のものは、昭和20年3月9日(金)深夜から翌10日(土)未明にかけての東京大空襲でした。欧州ドレスデンの無差別爆撃で悪名の高かった司令官カーチス・ルメイがアジアに転戦して来て最初の無差別絨毯爆撃で、ルメイの命令は、『東京の日本家屋は、田中家はボルト工場、隣の高橋家はナット工場、お向かいの佐藤家は風船爆弾造り』と言った具合

私の近況 卒業 10年

に、民間居住区域と軍事工場の区別がないから、全て攻撃目標として焼き払え』というものでした。

その夜、獨逸語科の3学年は学徒動員で配属されていた王子の東京造兵局尾久工場・武笠班で「対戦車地雷の爆管体作成旋盤作業」の夜勤でした。直撃を食らわなかった工場の屋上から、全天を覆い尽くす下町の猛火に目を凝らしていました。浅草在住の友人の中には悲惨な一家全滅もありました。しかしこんな『負の記憶』よりも、今となっては、友と歌った“Muß i denn, muß i denn, zum Städtele hinaus,”を懐かしく思い起こしています。 <鈴木 伸 (昭22卒)>

●今年79才になりました。自営業です。会社は数年前から娘婿に任せております。頭のトレーニングの為一大決心をして昨年春よりドイツ語教室に通っております。授業は月2回19時～20時30分です。生徒は8名、中年女性が4名、男性4名(平均年齢70位)。女性の皆さんは既にドイツ旅行の経験者、簡単な会話ができればもっと楽しい旅行ができると張り切っております。毎回欠席者無しです。先生はポーランドの女性です。ものすごい美人です。残念ながら今年の夏より若いドイツ人の男性の先生に変わりました。ポーランドの女性とドイツ人の男性の発音がかなり違いますので慣れるまで大変です。60年前獨協学園で勉強に励んだことを思い出しながら頑張っております。毎回宿題があります。テキストは全てドイツ語です。授業中は眠くありません。[獨協学園時代の授業中は眠いときが多々ありました]不思議なことに名詞の定冠詞の変化、動詞の人称変化、単語など覚えていました。妻も頭のトレーニングの為昨年春よりピアノ教室に通っております。やっと少し演奏が出来るようになりました。妻と二人健康寿命を謳歌しております。

追伸、来年早々にドイツ語クラスの集まりがあります。楽しみにしております。

<小倉 宗武 (昭31卒)>

●人生で大切な事「正直、勤勉、親孝行」心に残る天野貞祐先生の言葉。新校舎の白さ。ベテラン若手教師の絶妙なコンビネーション。獨協には良き私学の雰囲気と精神が引継がれていた。なつかしい。

<青野 和雄 (昭32卒)>

●昭和32年、思えば60余年が経ってしまった。当時公立中学から来た私には、いわゆる受験勉強と違った授業に驚いたのですが、天野校長自らのHiltyの講義や富岡先生の‘Immen See’の素読など、社会に出て諸先輩の話の旧制中学の授業と非常に似たものと知り、とても大切な青春が送れたと感じています。卒業年に日比谷公会堂で行われた「日独青少年交流会」にも出させて頂き、ドイツの同年代の青年と握手した時、先方が紺色のジャケットをビシッと着こなしていたの

をまぶしく思い、家人に黙って出たので、Yシャツとダブダブズボンの自分が恥ずかしかったのが今でもほろ苦い思い出です。 <村岡 守一 (昭32卒)>

●卒業して30余年がたちましたが、地方出身者だったため住居が何度も変わり、同窓生とはその後会っていません。ドイツ語世代です。

<佐武 一英 (昭32卒)>

●美ヶ原高原から霧ヶ峰を縦走した修学旅行昭和32年卒にとっては忘れ難い思い出となりました。あれから60年感無量です。獨協学園ご発展を祈念致します。 <山岸 郭郎 (昭32卒)>

●私はドイツ語クラスで級友は34人でした。今年79歳になりますが皆様お元気ですか。歯科医師として毎日仕事しています。同級の若井君とは時々食事して飲んで楽しんでます。この機会に再会したいと思います。 <三須 孝彦 (昭32卒)>

●今返信ハガキを書いています。ずいぶん前に獨協高校を卒業した事が感慨無量に思い出されます。良き先生、先輩、友人達を思い出します。今年の5月にドクターズクラブ、歯科医師獨協会、薬剤師会の合同三師会を初めて行います。今その準備をしているところです。多くの方々の参加をお待ちしています。

<滝川 国勝 (昭32卒)>

●齢、79歳になりますが、身心共に健在です。ウォーキング・音楽・美術鑑賞・読書と思索、そして友好対話と余生を価値的に有効に使っている昨今です。身体は確実に老いていきますが、決して心まで老いてはならないと思っています。 <小川 秀明 (昭32卒)>

●私達が29年高校に入学した時はまだ木造校舎でした。でも天野先生が校長に就任されていよいよ天野体制が具体的に動き出した時でした。岩原副校長、町田教頭での天野イズムが着々と動き出し、天野先生だからこそ出来た新校舎の建設計画も着々と進んでいました。一方、神田先生や公田先生、刀根先生など新進気鋭の先生を多数お迎えし、伊集院先生、入江先生など旧来からの先生方を含め新生獨協の誕生の時でした。それは新しい授業、新しい部活動なども含め、活気ある学校に転換した時代でした。今でも獨協の卒業生であることに誇りを持てる学校に大きく転換した激動の時でした。 <橋本 正樹 (昭32卒)>

●人生の大切な時期を獨協で過ごした事は幸せでした。特に吹奏楽部に所属し、現在も2年先輩とブラスバンドを楽しませてもらっているのは生きがいとなっています。 <鈴木 純一 (昭42卒)>

●上智大学同窓会(ソフィア会)に獨協出身者の同窓会「獨協ソフィア会」を立ち上げようと準備しています。昭和32年卒の戸川宏一ソフィア会副会長を中心に取組んでおりますので、ソフィアンの方は是非ご参

私の近況 卒業 10年

加下さい。

＜宮崎 輝雄（昭 42 卒）＞

●ビル管理人の仕事の傍ら、水彩画を描き、昨年からラグビーを再開しました。また、年 4～5 回同期生と懇親会を行なっています。来年 70 歳を迎えますが歳を忘れて頑張っています。＜野澤 正（昭 42 卒）＞

●`自由と責任、`人間は考える葦である、朝礼時に哲学者でもある天野先生のお話を覚えています。もっとしっかり聞いておくべきだったと後悔していますが、青年期に贅沢な機会を経験出来た事は私の矜持でもあります。昔日のお話を噛みしめながら教育の大切さを痛感しています。＜山内 健司（昭 42 卒）＞

●皆さんお元気ですか。大学卒業後は建築の設計を続けております。現在は H 18 年に独立し、若手の建築家と協働しながら自の得にものを伝えていければと思いつつ仕事に励む毎日です。＜杉山 満（昭 42 卒）＞

●学校出てから 50 年、今やしがらない年金暮し。転倒予防に明け暮れて昨年のテニスコート通いは 98 回、卓球場は 95 回、筋トレは 86 回どうにか身体は年なりに動かしているが頭の方はかなり心配な状況。まあいいか。＜伊藤 和雄（昭 42 卒）＞

●現在介護施設の医師として働いています。獨協 Dr's クラブの幹事を拝命、天野イズムの浸透した良き先生方と交流しています。最近は異業種の獨協同窓生と飲む機会多く、勉強になり又楽しからずやです。

＜引間 規夫（昭 42 卒）＞

●獨協の思い出の一部です。獨協中学に合格したこと。中学・高校と生涯の友を何人も得たこと。高校で素晴らしい先生が 3 年間担任だったこと。そして今年は高校卒業後 50 年目に当り古希同窓会に参加します。

＜小林 優元（昭 42 卒）＞

●独語クラス卒、医学部志望するも毎年サクラ散り続け早稲田政経へ。稀にも独語は先生と一対一の授業。その甲斐あって新日鐵へ…ハッピーリタイア目前にして難病発症。七転び八起きの人生かな！

＜高城 正和（昭 42 卒）＞

●卒業して 50 年、近日中開催される 42 年卒の古希同窓会に参加する予定です。こころワクワクです。現在は嘱託として今までの仕事をしながら、少しですが獨協同窓会のお手伝いをしております。

＜濱村 学夫（昭 42 卒）＞

●獨大法学部に進学、高島ゼミ会クラス会、オペラ観賞会、食事会等に参加中。また両国予備校經由獨医大に進学、越谷病院消内入局、父の跡目を継いで開業、2 児を授かり長男は医学部、二男は浪人中です。

＜曾谷村 泰弘（昭 52 卒）＞

●中 1 の夏休み、ドブ川だと思い込んでいた神田川の浅瀬にドジョウの群れを見付けた。未知の昆虫を求めて高山・離島も訪れたが、結局は都市に暮らす生き物

に興味、関心は戻る。あの夏の日を原点として、これからも彼らと関わる日が続くに違いない。

＜松下 浩（昭 52 卒）＞

●卒業 40 年が経過、家族も 4 人皆同じ職業になりました。越谷には獨協医科大学越谷病院があり大変お世話になっています。病院は本年増床となり、獨協医科大学埼玉医療センターに名称が変わります。

＜大図 弘之（昭 52 卒）＞

●今年の一月に愛娘が男の子を産みました、お祖父さんにデビューです。自分の育児は終了したとは思いますが、新しい生命のための仕事への高揚感があります。定年に向けてそれなりに頑張りたいと考えています。最近少し膝は痛いです。＜小林 信一（昭 52 卒）＞

●広島から上京し過ぎた獨協高校の生活は貴重な思い出一杯です。9 年前の 52 年卒同窓会も昨日の様に思い出します。歯科医師をしています。子供たちも薬剤士、内科医師と頑張ってくれています。

＜前田 知則（昭 52 卒）＞

●卒後 40 年、カープ優勝 25 年振り!! 充実した毎日、同級生達とは年 1 回集い懐かしさと温もりを感じつつ、ここ岡山でも獨協愛に満ちた先輩、後輩と語り、とても充実した時間を過しています。

＜平山 雅仁（昭 52 卒）＞

●前回から 10 年ぶりの投稿です。同じ同窓生の息子二人も社会人となりました。特に長男には待望の男子（5 歳）が誕生し、前回投稿した次世代も獨協への希望は現実へと向かっています。

＜呉 成哲（昭 52 卒）＞

●卒業生の皆様、お元気でしょうか。私は S 52 年の卒業生です。丁度 40 年が経ち還暦が近づいてきました。獨協で中・高・大と過ごし家業を継いで変りなく過ごしております。同窓生の皆様の健康をお祈り致します。

＜吉野 英夫（昭 52 卒）＞

●昭和 58 年に獨協医大を卒業後、東京医科歯科に 6 年、岩手医大に 5 年、その後は（月）みたけ眼科、（火）志和眼科、（水・木）岩手県立遠野病院、（土）都南眼科やツカザキ病院（姫路）などで日雇労働を続けています。

＜長谷川 豊（昭 52 卒）＞

●2016 年 3 月に長女が獨協医科大学を卒業しました。研修も当院で行っており、親子で獨協医大の医療に携わっております。＜濱口 眞輔（昭 58 卒）＞

●山形大学医学部を卒業後、そのまま山形で新生児医療に携わっております。東京を離れて 30 年、すっかり山形県人です。仕事のあとに山形のおいしい日本酒を飲むのが何よりの楽しみです。

＜若林 崇（昭 62 卒）＞

●高校を卒業して約 30 年があっという間に過ぎました。現在相模原で整形外科の診療所をやっております。

私の近況 卒業 10年

母校の発展を祈念しております。

＜青木 信一（昭 62 卒）＞

●現在弁護士をしています。税理士事務所と連携する案件も増えてきました。獨協を訪ねてみたいと友人とも話をするのですが、先生方はお忙しいのではないかと、なかなか実現できていません。

＜平井 経博（昭 62 卒）＞

●企業勤務の後、起業と廃業を経て今はまた企業へ。チャレンジをする精神は獨協で培われたと確信しております。現企業に偶然獨協の先輩がおり、今後は縦のつながりを強めていきたいと考えております。

＜高橋 亮（平 9 卒）＞

●米国での滞在を終え、一昨年より英語教師の職に就いております。日本も小学校での英語教育が始り、微力乍ら自らの経験を役立て教育の一端を担ってゆきたいと思っております。

＜鈴木 俊弘（平 9 卒）＞

●東邦大学医学部を卒業して母校で研修医をしています。日々の仕事で獨協出身の先生方の繋がりを感じております。学生時代はビオトープを手掛けて、現在もビオトープと屋上緑化が続いている事をうれしく思っております。

＜齋藤 学（平 19 卒）＞

●現在、東京歯科大学の大学院生です。高校 1 年生の時から始めた趣味のギターも 13 年目に突入しました。

＜森田 純晴（平 19 卒）＞

●北里大学病院の心臓血管外科に所属し。忙しいながらも充実した日々を過しています。当大学への推薦をいただいた母校に感謝しつつ、これからも精進していきます。

＜近藤 真（平 19 卒）＞

●家業、大学での研究、研究所での研究と大変ですが充実した日々をおくっています。卒業してからなかなか母校に行けていないので、遊びに行きたいと思っています。

＜田中 嘉法（平 19 卒）＞

同窓会幹事 懇親会 開催

2月18日（土）、午後4時から飯田橋駅近くの同窓生に馴染みの「トリノ」で、幹事会メンバーによる初めての懇親会を開催。通常、幹事会では同窓会運営に関しての重要事項の意見交換に終始し、幹事同士での親しい交流の時間が持てないのが現状。そんな中、昨年11月の幹事会で要望があり今回の開催となった。参加者は16名で、改めての自己紹介からスタートし、同窓会の現状の問題点やら、これからの有り様について熱く、若々しく語り合った刺激的なひと時でした。次回開催の折には、幹事の皆さま、是非ご参加下さい。なお、同窓会の幹事を募集しております。ご希望の方、事務局にご連絡ください。

（3頁第5号議案中の会則第7条の項をご参照下さい）



2列目中央 浅野会長、その前に宮田顧問、その他幹事の皆さん

物故者名簿（『独協通信』87号以降） ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日	昭和 18 年	佐藤 健	2015/12/1	昭和 39 年	岡野 晴雄	2016/
昭和 14 年	桑島 熙	2017/1/9	昭和 20 年	桂 義之	2016/8/8	昭和 46 年	市川 隆之	2017/4/1
昭和 16 年	澁澤 太郎	2016/12/3	昭和 20 年	青井 保男	2017/3/	昭和 47 年	大曾根紀之	2016/11/28
昭和 17 年	永山 高久	2013/4/4	昭和 25 年	野村 三雄	2017/3/7	昭和 48 年	清水 嘉孝	2015/4/9
			昭和 34 年	中村 信康	2016/10/18	昭和 52 年	岩崎 桂治	2016/5/22

寄付金納入者一覧（「87号」以降）

（敬称略）

中 島 一（昭和 12）	小 坂 弘 道（昭和 37）	伊 藤 英 一（昭和 52）	福 澄 重 泰（昭和 61）
大 場 莊 介（昭和 23）	柳 原 克 忠（昭和 39）	江 島 広 人（昭和 52）	矢 野 剛 司（昭和 62）
多 賀 秀 世（昭和 24）	齋 藤 達 雄（昭和 43）	小 倉 弘 章（昭和 53）	益 子 泰 雅（昭和 62）
中 嶋 眞 治（昭和 25）	小 山 紀 夫（昭和 45）	田 中 良（昭和 54）	藤 野 剛（昭和 62）
田 中 重 穂（昭和 26）	森 一 博（昭和 47）	土 屋 寛 芳（昭和 55）	白木原 健（平成 1）
棚 本 光 爽（昭和 26）	高 木 道 生（昭和 47）	酒 向 誠（昭和 56）	鈴 木 雄 大（平成 14）
中 原 雅（昭和 29）	秋 元 雅 之（昭和 48）	石 上 浩 庸（昭和 58）	新 井 悠 基（平成 20）
藤 田 実 彦（昭和 35）	木 村 宗 孝（昭和 50）	菅 谷 敦 人（昭和 58）	田 畑 惣 市郎（平成 25）
菅 谷 節（昭和 37）	伊 藤 公 一（昭和 51）	堀 秀 隆（昭和 59）	

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

● 新刊！「天野貞祐 — 道理を信じ、道理に生きる」

大正・昭和期に哲学者・教育者として、そして「獨協」の中興の祖として活躍した天野先生の評伝。カント哲学の研究者から戦後は文部大臣になり、その後、母校獨協中・高等学校校長、80才にして獨協大学を創設、その後の獨協医科大学への礎を築いた。本書は関係者へのインタビューを中心に、骨太の学究者・天野先生が戦前から戦後へと変わりゆく時代とどのように拘わり格闘してきたか、そして貫き通そうとしたものは何かに迫る。



著者 貝塚茂樹
武蔵野大学教育学部教授
放送大学客員教授

発行 (株)ミネルヴァ書房
刊行 平成29年4月10日
価格 4,320円

● 新駅名「獨協大学前〈草加松原〉」が誕生！

永年に亘る、獨協人の願いである駅名が平成29年4月1日からスタートした。1962年に建設された「松原団地駅」は、獨協大学が50回目の卒業式を迎えた、記念すべき今年、遂に、「獨協大学前」と改称された。草加松原は、2014年3月に国指定の名勝地“おくのほそ道の風景地”となったことから新駅名に併記。今後、ますます獨協大学が核となり、各種文化の発信基地としての役割が大いに期待される。



獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 佐久間 寛 道

昨年は、多くの同窓生の皆様より獨協祭・バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。

さて、今年も9月23日(土)・9月24日(日)の日程にて、獨協祭が開催されます。PTAでは昨年を引き続き、同窓生の皆様に獨協祭に参加していただき、更にバザー用品のご寄付ならびにご提供もお願いしたいと考えております。

バザーの収益金は、学友会への補助金として施設の改善、及びクラブ活動等の活性化に役立てられております。皆様には、後輩である在校生のために、お手元に眠っているお品物(新品もしくは未使用のものに限り、試供品や景品は除く)がございましたら、下記によりご提供下さいますようよろしくお願い申し上げます。

記

1. バザー用品受付期間とご提供の方法

- ・8月31日(木)～9月22日(金)
- ・宅急便にて下記迄お送りください。(元払いでお願い致します。)

〒112-0014 文京区関口3-8-1

獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」 TEL 03-3943-3651

- ・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

*お問い合わせ先 事務・淀縄(よどなわ)まで

(ロックアウト期間中の8月を除く)

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願い致します。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願い致します。



「協賛有料スペース」への掲載を募集します

前号 87 号でお知らせしましたが、このたび、「独協通信」紙面上に個人・法人名で掲載できる「有料スペース（広告）」を次号の 89 号から掲載することになりました。これに伴い広告の掲載を希望される同窓会員の個人・法人を募集します。第一回は下記の見本のように大スペース（縦 59mm × 横 86mm）掲載 1 回につき 4 万円、小スペース（縦 29mm × 横 86mm）同 2 万円の 2 種類のスペースをご用意します。会報という性格上、宣伝効果には限界がありますが、母校同窓会

を支援するという目的でご応募お願い申し上げます。作成上、ロゴ、カラー、書体等ご指定のある場合は版下をご用意いただくか、有料になりますが専門業者が対応致しますのでご希望をお寄せください。掲載は「独協通信」89 号で発行は 12 月中旬を予定しています。お申込みは同窓会事務局、応募の **×切は 9 月 3 0 日** とします。また、同窓会報「広告掲載取扱規程」は同窓会ホームページをご覧ください。事務局にご請求下さい。



〇 〇 一 郎 (昭和〇〇年卒)
〇〇歯科クリニック
東京都文京区関口〇-〇-1

小児歯科からインプラントまで歯科医療のことなら
当クリニックにお任せください



獨協同窓会

東京都文京区関口 3-8-1
03-3946-6352

同窓会員の親睦と母校発展に寄与することを目指して

創業 100 年 伝統と信頼

株式会社 〇〇商事

本社 大阪府〇〇〇〇〇〇-〇-〇
東京支店 東京都文京区関口〇-〇-1



お知らせ

1. 「第 2 回 私の趣味・逸品展」の出品作品の募集について

9 月 23 日（土）、24 日（日）の獨協祭において同窓会では、昨年同様「私の趣味・逸品展」を開催します。会員の皆様から自慢の自作品を下記により募集しますので、奮ってご応募ください。スペースの制約上、掲出は先着 20 名様作品に限らせて頂きます。（独協通信 87 号ご参照）

記

出品ご希望の方には、「**出品要項・申込書**」を配布しますので、ご一読また、必要事項ご記入のうえ、お申込み下さい。出品作品の種類は、書、絵画、写真、版画、陶芸、標本、など自作品。併せて、作品制作に纏わる、動機や楽しかった事、苦勞した処などの制作ヒストリーを 400 字程度にまとめご提出ください。当日、作品の傍らに**キャプション（作品解説）**として、設置いたします。出品作品を同窓会事務局への配送や、お持込の期限は **9 月 20 日（水）**までとします。ご協力の程、宜しく申し上げます。

2. 「独協通信 89 号」（平成 29 年 12 月中旬発行）への原稿募集について

会員の皆様方から、独協通信へのご投稿をお待ちいたしております。

主な内容は、①「コラムドイツ」（ドイツ語圏での幅広い体験など）
②「クラス会だより」・「クラブ OB 会」・「職域・地域会」などの報告
③「獨協の思い出」、「獨協ぶらり旅」、「私の近況」など。

原稿 締切日 平成 29 年 10 月 12 日（木）

原稿文章への加筆・修正、一部削除などご了承ください。

なお、締切日を過ぎた投稿分の掲載は次号になります。また、使用された文章・顔写真・集合写真などは同窓会 HP（ホームページ）にも掲載されますので、その点併せて、事前にご了承下さい。



お問い合わせ（郵送・配送先）同窓会事務局 担当 鈴木・筒井（毎週 月曜日・木曜日 13:00～16:00）

住所 〒112-0014 文京区関口 3-8-1 電話 03-3946-6352 メールアドレス：info@dokkyo-mejiro.com

編集後記

久しぶりに 24 頁構成。会員各位の同窓会への期待や本誌への関心の高まりと受け止め、責任の重さを感じながらも、嬉しい限り。特に「クラス会だより」や「私の近況」への投稿が増え、社会での多方面で活躍されている会員の近況や、同窓、同期の交

流の盛り上がりなどが活き活きと写真と共に綴られ爽やか。春号は平成 29 年度総会・懇親会のご案内として、「総会に向けて」の浅野会長挨拶を冒頭に。議案書・予算表などご一読頂き、「幹事募集」「広告スペース募集」などご理解を賜りたい。（克記）